

〇〇株式会社
ご担当者 様

本資料はサンプル版です

※このメールは過去にお取引や名刺交換をさせていただいた方にも配信しています。

実際に配信されるメールマガジンとは、レイアウトや構成が一部異なる場合があります。

こんにちは。LSIメディエンス 食の安全サポート メールマガ事務局です。
本日は「食の安全サポートメールマガジン2025年1月号①」をお届けいたします。

▶ 今月の特集

食の未来と安全を守るために ＜知っておきたい！ 農薬のリスク管理と検査の役割について＞

農薬は、持続可能な農業と安定した食糧供給を支える重要な存在です。しかし、その利用には適切なリスク管理が求められます。食品の安全性と品質の確保は、私たちの食生活を守るために欠かせない課題であり、食品取扱事業者にとっても大切な責務です。

今回のメルマガでは、農薬の安全性を確保するための仕組みや、残留農薬の現状と課題、さらに食品の安全を支える残留農薬検査の役割と活用方法について分かりやすく解説します。

▶ 残留農薬とは

農薬の使用後、作物や土壌、河川水などに残る農薬成分や分解物を、残留農薬といいます

 殺虫剤	農作物を害する昆虫の防除に用いられる薬剤
 殺菌剤	細菌、カビ、ウイルスを抑制し、農作物を病害から保護するための薬剤
 除草剤	農作物の収穫量や品質に影響する雑草を防除する薬剤
 その他	植物成長調整剤、生物農薬など

農薬は1930年代に使用が始まり、その後、農業の効率化に貢献する形で広く普及しました。しかし、**残留農薬が人や環境に及ぼす影響への懸念が高まり、安全性を確保するための対策が求められる**ようになりました。現在では、多くの国で厳しい基準や検査体制が整備され、農薬の安全な利用に向けた取り組みが進んでいます。

▶ 農薬使用の利点とリスク

● 利点

	安定した食料供給	害虫や病害から作物を守り、収穫量を確保することで 安定した食糧供給に寄与
	品質の向上	病害や雑草の被害を防ぐことで、 高品質な農産物の生産 が可能に
	農業の効率化	作業負担が軽減され、 少ない労力で高い収穫量 を実現

● リスク

	健康への影響	適切に使用しない場合、作物に残留する農薬が基準値を超え、健康被害を引き起こす可能性
	環境への影響	過剰な農薬使用は環境負荷を高め、生態系に悪影響を及ぼす可能性
	薬剤耐性の出現	同じ系統の薬剤を繰り返し使用すると、害虫や病原菌が薬剤耐性を獲得する可能性

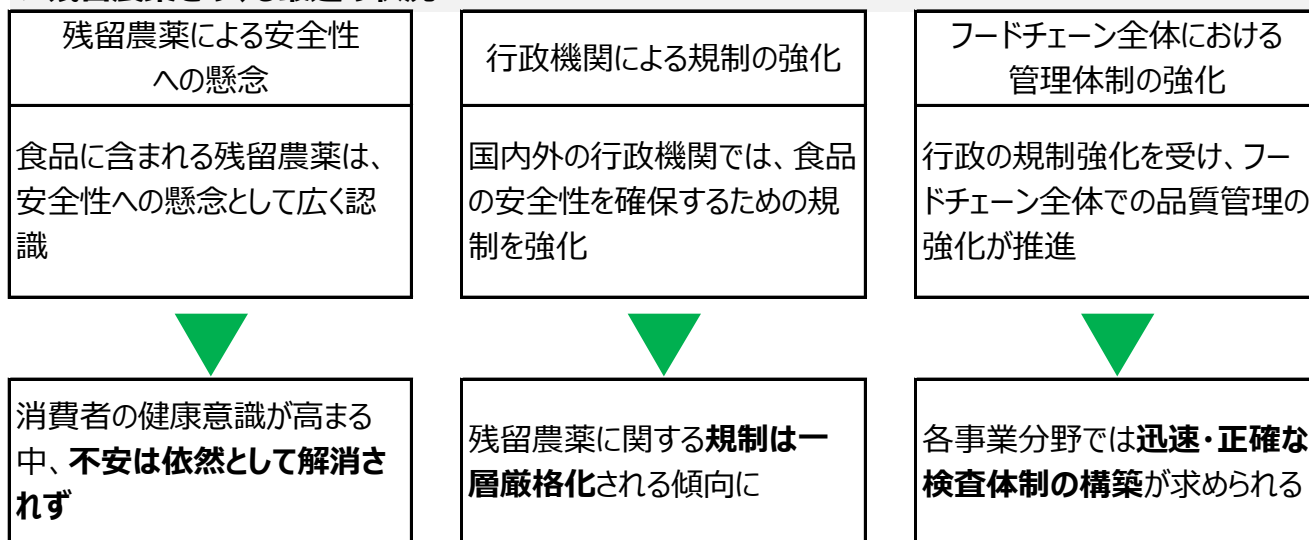
農薬は、持続可能な農業と安定した食糧供給を支える重要な手段です。しかし、その恩恵を最大限に活かすためには、**利用に伴うリスクを正しく理解し、適切に管理**することが欠かせません。

▶ 農薬の安全性を確保するための仕組み

登録制度と安全性試験	使用基準・残留基準の設定	最新の科学的知見による再評価
農薬は、農薬取締法に基づき、 毒性試験や残留試験、環境影響試験 などを経て登録	農薬は試験データを基に、作物ごとの使用方法や量が 使用基準 として設定され、食品中の 残留基準値 も定められる	農薬は、登録後も最新の科学的知見に基づき、 定期的な再評価 を実施
基準を満たさない農薬は登録不可	基準を遵守する限り、健康リスクは極めて低いとされている	安全性と有効性を常に確認し、国際基準との整合性も図る

農薬の安全性は、科学的な評価と適切な使用方法の遵守によって確保されています。この仕組みを理解し、正しく活用することが、**農薬の持つ利点を最大限に引き出す鍵**となります。

▶残留農薬をめぐる最近の状況



食品の安全性と品質の確保は、取引先や消費者の信頼を築き、その健康を守るために欠かせません。食品安全への取り組みは、今後も重要な課題といえます。

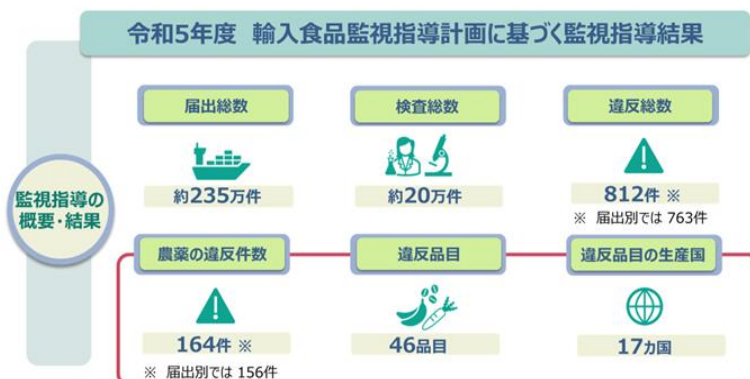
▶国内作物における残留農薬の状況と課題



出典：農林水産省ホームページ「国内産農産物における農薬の使用状況及び残留状況調査の結果について（令和4年度）」

国内農作物における残留農薬の基準値超過はゼロであるものの、**使用基準の遵守が一部で徹底されておらず、管理体制の一層の強化が必要**とされています。

▶輸入食品における残留農薬の状況と課題



出典：厚生労働省ホームページ「令和5年度における輸入食品監視指導計画に基づく監視指導結果」

残留農薬の違反は**全違反数の20%を占め、依然として高い傾向**です。また、**特定の品目や生産国で基準値超過の事例が集中**しており、各国でのリスク管理の偏りをどのように是正していくかが今後の重要な課題といえます。

▶ 残留農薬検査の役割と必要性

消費者の健康保護	安全な食品であることを検査で確認することで、 消費者の健康を守る
安全性の確保	農薬が基準値を超えないことを確認することで、 農作物の安全性を高める
信頼性の維持	定期的な検査を実施することで、消費者や取引先に対して、 一貫した品質を提供 できる
経済的損失の回避	規制対象物質の検査を行うことで、商品回収等による 経済的損失を防ぐ
ブランド価値の向上	高品質な食品であることの正当性を証明することで、 ブランド価値を更に高める

残留農薬検査は、単なる法令対応の手段にとどまらず、**事業の持続的な成長を支え、市場での信頼性を構築するための重要なツールとしても機能**しています。検査の積極的な活用は、食品安全を守るだけでなく、事業者としての価値を高めるための鍵となる取り組みであるといえます。

▶ 残留農薬検査の概要

食品中の残留農薬検査法：厚生労働省からは、**一斉試験法と個別試験法**が通知または告示

概要	●一斉試験法は、質量分析計を活用した技術が採用されている ●個別試験法は、一斉検査法で対応できない農薬や、輸入食品に対する行政検査で活用される
----	--

一斉検査の特徴	●GC-MS/MSやLC-MS/MS等、超高精度機器を使用し、微量成分の正確な測定が可能 ●一度の測定で、数百種類の農薬の確認が可能 ●機器の感度が非常に高く、基準値が低い農薬成分の測定も対応が可能
---------	--

▶ 弊社の残留農薬検査サービスの特徴

①	高精度 & 迅速な検査体制	・農薬が検出された場合は常に確認試験を実施いたします ・最短4営業日でご報告いたします 当社の営業日は月曜日～土曜日となります（日曜日、祝祭日は営業日にカウントされません）
②	基準値を併記した報告書	農薬が検出された場合の結果の評価に大変便利です
③	農薬登録の確認	国産農作物については検出された農薬の登録状況を確認し、未登録の場合は結果報告前に速報いたします
④	柔軟な検査対応	作物ごとや用途に応じた検査セットをご用意。多様なニーズにお応えします
⑤	多彩な報告形式	検査結果はメール報告やWEB報告等、ご希望に合わせた形式で迅速にお届けいたします

▶ 弊社の残留農薬検査メニューの一例

目的	検査セット	セットの特徴
使用農薬が不明 なので、網羅的な検査をしたい	ポジティブリスト対応セット 500項目 307項目	海外及び国内で実際に使用される農薬を広範囲にカバーしたメニューです。使用履歴の不明な農作物や輸入食品等、さまざまな食品にご利用いただけます
国産作物で、ドリフト対策も考慮 した、作物毎に最適な検査をしたい	作物別セット 玄米252項目、穀類160項目 野菜160項目、豆芋160項目 果実160項目、茶253項目	残留基準が設定されており、かつ国内で実際に使用されている農薬を作物ごとにセットにしたメニューです。過去に検出された農薬・残留性の高い農薬を中心に構成されています。
食品を輸入する際に違反となるリスクの高い農薬 を中心に検査をしたい	輸入食品266項目	輸入食品で過去に検出事例や違反事例のある農薬を中心に構成されたセットです
	モニタリング検査対応セット	厚生労働省モニタリング検査に対応したセットです。野菜、果実、穀類・豆類・種実類、畜産食品、水産食品用のセットをご用意しております

その他、セットメニューに含まれていない項目の追加や、ご予算に応じた検査項目のカスタマイズも承っております。お客様のニーズに合わせて柔軟に対応いたしますので、どうぞお気軽にご相談ください。

その他詳細につきましては当社までお問い合わせください。

ご質問やご意見がございましたら、ぜひお気軽にお問い合わせください。



[LSIメディエンスお問い合わせフォーム](#)

<ホームページはこちら！>

[食の安全サポート | LSIメディエンス \(medience.co.jp\)](https://medience.co.jp)

株式会社LSIメディエンス

〒174-0051東京都板橋区小豆沢4-25-11

TEL:03-5994-2271

E-mail : LSIM-FOOD-EIGYOU@nm.medience.co.jp

メールの登録解除 [はこちら](#)から